

泌尿器科診療の最新スタンダード —平成の常識は令和の非常識

「臨床泌尿器科」編集委員会 編

臨床泌尿器科 2020年4月号(増刊号)(Vol.74 No.4)

＜書評者＞ 伊藤 明宏(東北大学教授・泌尿器科学)

泌尿器科は、新生児から高齢者まで全ての年齢層を対象としており、扱う領域は、悪性疾患、尿路器感染症、腎機能障害、腎移植、下部尿路機能障害、内分泌疾患、性機能障害、小児・女性泌尿器など、多岐にわたります。教育病院、市中病院、民間病院、クリニック、それぞれの施設やそれぞれの地域において特徴的な医療を行っており、泌尿器科疾患の全範囲に常に触れているわけではありませんので、全ての最新知見に精通している泌尿器科医は決して多くないと思います。一方、診療ガイドラインの改訂や取扱い規約の改訂は、以前よりも間隔が短くなっており、各自の守備範囲としている領域においても、全ての改訂内容をフォローできている専門医は決して多くはないことと思います。インターネットが身近に利用できる環境が整い、検索すれば最新情報を入手することは可能ですが、あまりなじみのない領域ではキーワードすら思いつくことができず、自分の知識をアップデートするのは

なかなか容易ではないのが現実ではないでしょうか。

本書では泌尿器科診療の全ての領域にわたって、最新情報として押さえておくべきポイントについて、それぞれの専門家がコンパクトにまとめて記載しています。セッションの冒頭で、以前の常識(平成の常識)と現在の常識(令和の常識)がコラムとしてピックアップされています。これまでの常識について、「確かにそうであった」とうなずきながら読むことで、読者はここで安心することができます。そして、これまでの診断や治療の変遷を踏まえて読み進めることで、新しい常識を吸収しやすくなっているのが、本書の特色だと思います。診療ガイドラインや取扱い規約が改訂されて多数出版されていますが、本書では現在の常識として改訂ポイントをピックアップして記載しているので、最新の知見と改訂ポイントを一読で確認することが可能です。本邦の各種診療ガイドラインにおいて、EAUやNCCNガイドライ

ンのような小まめなアップデートは、現実的には困難です。そのような現状ですが、次の診療ガイドラインが出版される前に、WHO分類のアップデートに伴う知見や海外のエビデンスを基にした知見など、すでに日常診療として実践されていることが多々あります。また、新規治療薬の国内承認が相次ぎ、用法追加承認もしばしば行われています。診療ガイドラインでは追いついていない治療方法についても、本書では新しい常識として取り上げられており、up to dateの診療を患者に提供する際の根拠として利用することが可能です。

医療は日進月歩であり、油断しているとすぐに置いて行かれます。本書を常に手元に置いておき、自分自身をアップデートするきっかけとして、利用していただきたいと思います。

● B5 頁256 2020年4月
定価: 本体8,200円+税
医学書院刊